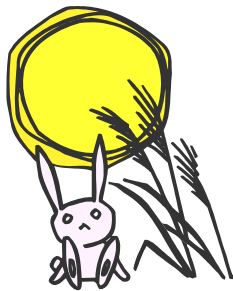


米 峰



発行日 2007年10月(第22号)
発行者 (株)柏崎マリン開発(指定管理者)
〒945 0854 新潟県柏崎市東の輪町8 18
:0257 21 1255 FAX:0257 21 1670
電子メールアドレス info@kashiwazaki-marine.jp
ホームページアドレス http://www.kashiwazaki-marine.jp

がんばろう! 輝く柏崎

~新潟県中越沖地震から3か月を経過して~

このたびの中越沖地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早く復興されますことをお祈り申し上げます。

マリーナをご利用の皆様方には、ご不便をおかけしております。
震災被害の復旧については、その都度ご案内を差し上げたとおり逐次進められておりますが、いましばらくお時間を頂戴したいと存じます。

シーズンも終盤を迎えつつありますが、ご利用も徐々に戻りつつある今日です。お時間のあるときには、マリーナにも足をお運びいただきたく思います。

また、夏場はイベントを開催できませんでしたが、年末には、恒例の会員懇親会も計画しておりますので、多数のご参加をお待ち申し上げます。

新潟県柏崎マリーナ
所長 真貝和博

お知らせ

年末年始の休港日について

年末年始にあたる12月30日(日)~1月2日(水)はマリーナの休港日となっております。
年が明けて新年は、1月3日(木)から営業日となっておりますので、年末年始共々皆様のご利用をお待ち申し上げます。

大型桟橋艇「共同上架」のご案内

下記、両日に大型桟橋艇の共同上架を実施いたします。当日は駐車場等の混雑により他の利用者の方々にはご迷惑をおかけすることがあるかと思われます。その為、**マリーナ内駐車場が満車の場合はマリーナの外駐車場をご利用くださいますよう、ご協力をお願いいたします。**

<日 時> 11月 3日(土) 8:50~11:45 (申込み期限10月27日まで)
11月10日(土) 8:50~11:45 (申込み期限11月 3日まで)



「会員懇親会」を開催します!

恒例となりました「柏崎マリーナ会員懇親会」を来る12月1日(土)18:30より、会場「メトロポリタン松島」にて開催いたします。詳しくは、後日改めてご案内いたします。

本年は、新潟県中越沖地震もあり、来年に向けて元気を出していきたいと思い、昨年よりも参加しやすい会費とするつもりでおりますので、ご家族・ご友人など大勢お誘い合わせのうえ、たくさんの方々にご参加いただきたくお待ちしております。

また、当日は、「柏崎マリーナオーナーズクラブ」の総会も懇親会前に予定しております。



「ボート操縦免許」更新・失効講習

毎年開催しております更新・失効講習会を来年の2月3日(日)に開催いたします。
会員の皆様の中で、今回該当される方々には個々にご案内を差し上げますが、お知り合いの方などで該当される方がいらっしゃいましたら、ぜひマリーナまでお問い合わせください。
詳細は11月下旬にHP、掲示物などでお知らせいたします。

告知コーナー (柏崎マリーナオーナーズクラブ「KMOC」様)

「柏崎マリーナオーナーズクラブ総会」のご案内

12月1日(土) **柏崎マリーナ会員懇親会**に合わせて、柏崎マリーナオーナーズクラブの総会を開催いたします。

会場は、懇親会と同一会場のメトロポリタン松島で、懇親会の開催前15分程度の時間を戴き、総会を行ないます。総会は、**6時15分から30分まで**を予定しておりますので、総会出席者は、事前に懇親会受付けを済ませてからご入場ください。

総会終了後、引き続いて懇親会を開始いたしますので、クラブ会員以外の方も、会場にお入りいただいて結構です。

なお、年間大物賞の表彰式は、マリーナ利用者全員を対象としていますので、懇親会の中で行います。



特集

【長距離セーラーに朗報！トカラ列島～奄美大島間、約3マイルが沿海区域に!】

以前よりクルージングセーラーが待望していたトカラ列島から奄美大島への3海里の近海区域が今年の3月1日付で法令改正され沿海区域に含まれることになりました。

今まで沿海仕様のヨットはこの近海区間を通過しないと沖縄方面に行けなかったため、皆さん苦労していたそうです。鹿児島で有効期限のある臨時航行検査を取ってから沖縄方面に行く方法もありますが、時間と費用もかかる上、1ヶ月間という有効期限もあって、セーラー達には敬遠されていたようです。

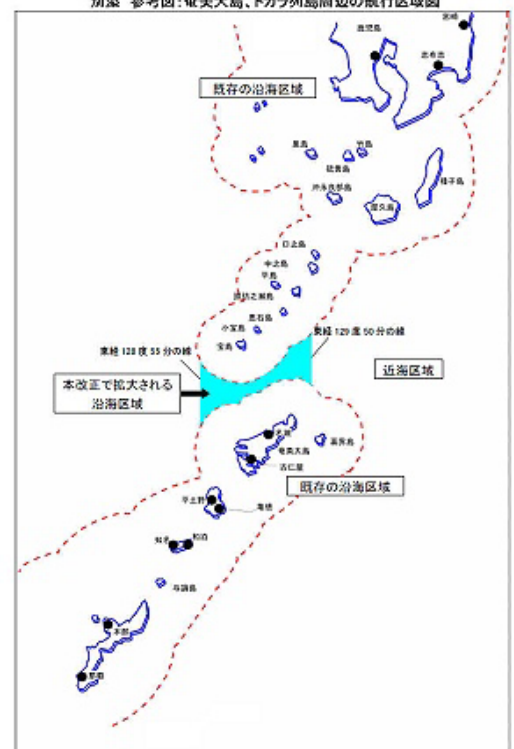
次のページの「ビジターさんいらっしゃい!」のコーナーで紹介させていただきました日本一周2回目の丸山さんもおっしゃっておられましたが、航海者の中では「日本一周航海の定義」に沖縄を入れる、入れないという議論もあったほどだそうで、今までこれがネックで沖縄への航海を断念していた方には朗報となりそうです。

余談ですが、トカラ列島は2009年の皆既日食の絶好の観測地と言われておりますので、今回の法令改正によって日本中の多くのセーラーが一同にこの海域に集まるような記念すべき一大イベントになるかもしれません。

詳しくは下記リンク国土交通省海事局のホームページをご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/maritime/safetyenv/tokara.html>

別添 参考図:奄美大島、トカラ列島周辺の航行区域図



【国土交通省海事局資料より】

ビジターさんいらっしゃい！ (当マリナーに寄港された「ビジター利用」の皆様の一部をご紹介しますコーナーです)

(来港日2007年 5月16日～5月18日)

今回は「日本周航(一周)2回目！」というベテランセラーの丸山さんご夫妻にお話を伺いました。今回のマリナーへの寄港は、発電機の修理のためでしたが、翌日から天候も荒れてきたこともあり、ついでの市内観光も含め3日間のマリナー滞在となりました。

その丸山さんの愛艇「セレナ」(カボリコ38、船齢15年、重量約12ト、ヤンマー4JH)は、ワインレッドをイメージカラーとしたアメリカ製の高級艇で、丸山さんが毎年丁寧に塗っているニス塗りのチークと実にマッチした洒落た造りの船でした。

ご主人の暢(とおる)さんは今年で73歳、奥様の茂子さんは66歳ということですが、お二人にお話を伺うと、実際の年齢を感じさせない若々しさが感じられ、表情も生き生きと見えまして。

現在、丸山さんは愛知県内にて医院を開業なさっており、旅の間の留守は息子さんに任せてあるとのこと。そしてセレナのホームポートは、自宅から4時間かけて行く志摩ヨットハーバーで、週末は殆んどそこに居るので、お孫さんと会うのも殆んどが船の上だそうです。

さて、丸山さんがヨットを始めたきっかけというのは、今から25年ほど前、日本でも有数のヨットオンリーのマリナーである志摩ヨットハーバーの環境に惚れたことから始まったそうで、その後それまで乗っていたモーターボートを処分しヨットを購入。晴れてお目当ての場所に入ることが出来たそうです。ところが、ヨットに関しては全くの素人であったため、当初は奥様と2人でヨットスクールに通い、将来の長距離航海に備えて、レーダーの免許もお二人で取得されたそうです。

現在の船は2艇目で、6年前にお仲間の船と一緒に日本周航をされた後、今度は自分たちだけで周ってみたいとなり、ロングクルージング向けの現在の船を購入されたそうです。

「ご自慢の艤装は？」というこちらの質問には、まず、ハード製とソフト製のドジャー(風防)を挙げ、「これがなければ絶対に快適には航海できない!!と断言できる」ほど丸山さんにとって重要な艤装とのこと。

次に挙げたのがメイン&ジブフアラーで、特にメインの方は、セールがブーム巻き取り式となっており非常に便利で、これを電動ウインチと組み合わせれば丸山さんもあと20年位はヨットに乗り続けることが出来そうです。

それと、お二人にはこの大きさと重量級のポリウレームのある船体は、各地での係留作業が最も重要な仕事となる日本周航において、大きな負担となっているはずですが、その解決法はいたって簡単でした。それが大型で丈夫なフェンダーの活用です。12トンの重量はいくら力が強かるうが、抑えようと思って抑えきれぬものではありません。その為、船内外には長持ちする工夫が施された通常よりも大型のフェンダーが数多く備えてありました。各地に入港する際は、奥様がハンドルを握り(もちろん免許はお持ちです)操船を、丸山さんがロープを持って飛び移るといった役割分担が決まっているそうですが、これは、「ロープを持って岸壁に飛び移る危険な係留作業は、女性にはさせられない!」という丸山さんの奥様への気遣いがあるとのこと。そして奥様が安心して操船できるのは、やはり大きく丈夫なフェンダーがあってこそなのです。

そんな、仲睦まじいお二人の楽しみは、行く先々での観光。とはいっても家計簿の管理をされている奥様が決して無駄使いをしている訳でもなく、毎月の生活費は年金の範囲内でやりくりしているとのこと。

「日本周航されてきた中で特に思い出に残っている港はどこですか?」という質問には、世界遺産で有名な屋久島、赤レンガ倉庫の函館、大型商業施設が立並ぶ長崎の出島ハーバーなどが印象に残っているとのこと、これらはどこも航海者の間では外せない寄港地となっているメジャーなスポットです。夫婦共通の趣味を持つのはなかなか難しいものですが、お互いの趣味に興味を持ち、たまには相手の趣味に付き合ううちに理解も深まっていくものではないでしょうか。全くの無関心では、せっかくの喜びも楽しさも半減してしまうものですから、皆さんも今回の丸山さんに習い、少しだけ?努力してみたいかがでしょうか。



おさかな事典

第15回「鱈(シイラ)」スズキ目シイラ科シイラ属



【解説】シイラは夏のルアーフィッシングの主役です。針掛かりした時の猛烈な引きや、針から逃れようと走り回り、ジャンプを繰り返す迫力とその魚体の美しさは釣り人達を魅了して止みません。

日本海側では主に春から夏に北上し、秋から冬に南下する季節回遊を行っているため、新潟でも春先と晩秋の頃、大型が釣れはじめます。



シイラの外見上の大きな特徴は二つあり、一つ目は成長するにつれて異様に大きくなるオスのおでこです。一方、メスのおでこは卵型の為、オス・メスの区別は容易に出来ます。もう一つの特徴は、その体色で、背は青緑色、腹は金粉を散りばめたような銀白色で、体全体には青色の小さな斑点が散りばめられていて、その泳ぐ姿は見事なほどに美しいです。ちなみに英名では Dorado(「黄金色」の魚)とも呼ばれています。ところが残念なことに、

死後の体色の変化はあっという間で、背は紺色、腹は灰色へと変化し、全体的にくすんだ色になってしまいます。

次にシイラの食性についてですが、この魚の食欲は並外れており、日中に海藻の下や海面の漂流物について遊泳し、表層のイワシやマアジ、トビウオ、カワハギ、イカ類など手当たり次第に何でも食べる大食漢です。シイラはこの旺盛な食欲により急速に成長し、2歳の終わり頃には成熟。その後、最大で200cm / 30kg程度の大きさにまでなります。また、シイラは大海原の表層を素早く遊泳するのに適した姿をしており、浮き袋も持たない事から、海面や海底へと自由自在に行き来し、時速60kmにも達するというスピードや跳躍力、万力(まんりき)と呼ばれるほどの力強さなど、高い運動能力を持っています。



【調理法】足の早い魚(痛みやすい)ですので、釣った後の処理を確実に行わないと、せっかくの釣果が下痢と嘔吐と後悔で終わってしまいます。

新鮮なものは刺身が一番うまく、夏から晩秋にかけては、もちもちとした食感に脂が乗り、旨味も強く食べ飽きない味わいがあります。特にバターや油との相性がよく、身離れの良い身は、ムニエルやフライと相性が良いようです。本場ハワイでは、ワインを振って焼く「マヒマヒ(現地の呼び名)のステーキ」が有名です。

掲示板

船台のキャスターメンテナンスについて

シーズンオフのこれからの時期に、マリーナではシーズン中に酷使した船台のキャスター(車輪)メンテナンスを毎年行なっております。内容は、ベアリングへのグリスアップで、キャスター内に浸入した海水の押し出しと、ベアリングの潤滑に欠かせない耐水グリスの入替え・補充です。最低でも年に1回はグリスアップを行なわないと、異常磨耗によるベアリングの破損にもつながり、船台を移動できない状態になってしまいます。またグリスアップと同時にサビ落とし&サビ止め塗装も行なっており、消耗品とはいえキャスターが出来るだけ長く使用できる様なメンテナンスを心がけております。

もちろんご自分でグリスアップしていただいても構いませんが、その際はグリスガンをニップルに差し込んで古くなったグリスが外にはみ出してくるまで充填し、新しいグリスを内部に十分に行き渡らせるようにして下さい。そして、はみ出た不要なグリスはウエスなどできれいに取り除いてください。はみ出した余分なグリスをそのままにしておきますとハーバー内の路面を汚すことになり、いつかは自分の足元を汚すこととなります。それらの点にご配慮の上、作業をしていただければ特に問題はございません。

マリーナでのメンテナンスをご希望の方は、12月中にお電話またはメール等でお申し込みください。

冬期整備のご案内

柏崎マリーナ整備工場では例年行なっております(希望者のみ)シーズンオフのメンテナンスを11月下旬より行ないます。ボートを使用しない冬期間に各部を点検整備し、来シーズンをノントラブルで楽しんでいただきたいと願って実施しているものです。各点検項目を実施し必要であれば交換、修理、調整等を行ないます。エンジン・ドライブ等は機械ものですから突然のトラブルは避けられませんが、シーズンオフにチェックし手入れすることで、大きなトラブルは未然に防げるものと考えております。